天草市立小・中学校における休日の学校部活動地域移行推進計画

天草市教育委員会

令和7年（2025年）3月

目次

第1章 推進計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
第1節 推進計画策定の趣旨	
第2節 推進計画の位置付け	
第3節 推進計画の期間	
第2章 本市の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2～
第1節 生徒数、運動部活動及び文化部活動の設置状況	
第2節 部活動に係る教師等の勤務状況	
第3章 基本理念と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4～
基本理念	
「子供たちが継続的に活動できるスポーツ・文化芸術環境を創出します」	
基本方針1	
「中学校における休日の部活動を地域移行する	
小学校における部活動を地域移行する」	
基本方針2	
「子供の発育発達に応じた活動を行う新たな地域クラブを目指す」	
基本方針3	
「指導者の確保と資質向上を図る」	
第4章 具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 6～
第1節 市立小・中学校における部活動を地域移行するための取組	
1 新たな地域スポーツ・文化芸術活動推進体制確立のための取組	
2 新たな地域スポーツ・文化芸術活動条件整備のための取組	
第2節 指導者の確保と資質向上に向けた取組	
第3節 市立小・中学校における運動部活動及び文化部活動地域移行後の取組	
第5章 今後の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 10～
第1節 今後のスケジュール	
第2節 推進計画の見直しと更新	

第1章 推進計画の概要

第1節 推進計画策定の趣旨

部活動は、生徒が自主的・自発的に参加し、各部活動顧問の指導の下、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支えにより、我が国のスポーツ・文化芸術振興を担ってきた。

また、異年齢との交流の中で児童・生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、教育的意義を有してきた。しかしながら、人口減少に伴う少子化が進展する中、天草市立小・中学校（以下「市立小・中学校」という。）の部活動を従前の体制で運営することが困難な状況になりつつある。学校や地域、種目や分野によっては存続が厳しい状況が増している。

さらに、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなることに鑑み、児童・生徒が自主的に多様なスポーツ・文化活動に継続して親しむ活動環境を整備する必要から、学校、家庭、地域及び行政が連携・協働し、休日の部活動の地域移行に向けた総合的・計画的な取組の方向性を本推進計画で策定する。

第2節 推進計画の位置付け

本推進計画は、「スポーツ基本法」（平成23年法律第78号）に基づく「第3期スポーツ基本計画」（令和4年3月25日）、文化庁「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年）、文部科学省「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和3年2月）及びスポーツ庁・文化庁の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（令和4年12月）、熊本県教育委員会による「児童生徒のための運動部活動及びスポーツ活動の基本方針」（平成27年3月）、「中学校における学校部活動の指針」（令和5年3月）、「熊本県公立中学校における休日の運動部活動地域移行推進計画」（令和5年4月）及び「熊本県公立中学校における休日の文化部活動の地域移行推進計画」（令和5年10月）、「第3次天草市教育振興基本計画」（令和5年度～11年度）及び「天草市中学校における部活動の方針」（令和5年8月）を踏まえ、熊本県やスポーツ関係団体及び文化芸術団体等との連携・協働の下、一体的な取組を推進する計画として位置付けた。

第3節 推進計画の期間

国のガイドライン及び熊本県の推進計画を踏まえ、令和8年度までに本市の方向性を見定め、本推進計画を推進し、段階的に環境整備を図るものとする。

第2章 本市の状況

第1節 生徒数、運動部活動及び文化部活動の設置状況

近年、社会情勢として少子化により、市立小・中学校の部活動を取り巻く状況には、チーム編成の困難さ、保護者や生徒のニーズの多様化、また指導者不足などの課題が指摘されている。

まず、本市においても少子高齢化の進展により、市立小・中学校の生徒数は減少傾向にあり、天草市が誕生した平成18年度児童・生徒数8,536人であったものが、令和6年5月1日現在で4,976人に減少している。また、今後とも出生数減少による児童・生徒数減少が一層進むことが見込まれている。(第3次天草市教育振興基本計画・令和6年度児童生徒数・学級数公開用より)

令和5年度天草郡市中体連大会においては、女子バレーボール5校、女子バスケットボール7校、野球7校、サッカー4校が合同チームとして出場という状況であった。

令和6年度は、年度当初の時点で野球において4校、サッカーにおいて4校、女子バレーボールにおいて5校が合同チームを組んでいる。更に、令和6年度天草郡市中体連大会後には、新たに野球・女子バスケットボール・サッカー・女子ハンドボールで部員不足が生じる状況にある。全ての部活動顧問のうち、専門的な指導ができる顧問は37%という結果であった。

文化部活動に関しては、吹奏楽11校(小学校吹奏楽部を含む)、音楽(器楽)2校、合唱1校、美術2校、文化1校の学校数と分野になっている。専門的な指導ができる顧問は76%であるが、加入数においては学校間格差が大きい状況が見られる。

また、4小学校で吹奏楽部が活動しているが、部員数の減少に伴い今後の活動継続を検討している小学校もある。

以下に令和6年度の各中学校部活動種目別加入者数と小学校吹奏楽部加入者数を示す。

令和6年5月末現在

(表1) ◇運動系17種目(76部活動数) ◇文化系 5分野(17部活動数)

中学校 種目	本渡	本渡東	稜南	牛深	牛深東	有明	御所浦	倉岳	栖本	新和	五和	天草	河浦
野球	42	6	23	12	1	13			8	12	29		8
男子ソフトテニス	28		20	15	4				7		18	16	10
女子ソフトテニス	28	8	18	9					7			10	5
男子ハンドボール	29												
女子ハンドボール	21		13								13		
男子バスケット	36			18									
女子バスケット	19			8		1			3			8	
女子ソフトボール	19												
サッカー男子	32	19	22	11				1			13		
女子	1	1	0	1				0			0		
陸上 男子	41			2	6								
女子	23			9	6								
卓球 男子	28	10		6									
女子	31	1		0									
男子バレーボール	41		14			17	9						
女子バレーボール	29	4	24	8	8	17	13	3		7	17		10
柔道 男子	4	1						0					
女子	4	0						0					
剣道 男子	12	5	5			0		4	5				
女子	5	7	2			0		0	6				
空手道 男子	4												
女子	20												
総合 男子								5					
女子								0					
吹奏楽 男子	13	0	12	2	1						3		5
女子	42	7	29	9	8						13		12
合唱 男子	0												
女子	12												
美術 男子	5		4										
女子	36		19										
文化 男子								1					
女子								3					
音楽 男子									0	3			
(含:器楽) 女子									1	3			

小学校	4年生	5年生	6年生	計
本渡南	12	16	8	36
本渡北	25	18	17	60
亀川	15	14	14	43
五和	5	8	0	13

第2節 部活動に係る教師等の勤務状況

学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、児童・生徒同士や教師等と児童・生徒等の人間関係の構築を図ったり、児童・生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたり、また、責任感や連帯感の涵養に資するなど、その教育的意義が高い活動である。これまでの部活動は教師等による献身的な支えの下で成り立っており、持続可能な部活動と学校の働き方改革の両方を実現するには、市立中学校においては特に休日の部活動における教師等の負担軽減を図るとともに、市立小学校文化部活動においては既に社会体育移行がなされている状況と熊本県が示した文化部活動の地域移行推進計画から平日も含めた地域移行による負担軽減を図る必要がある。

令和5年7月に小・中学校の教師等を対象に部活動についてのアンケートを実施した。その結果、「週における平日の部活動従事日数」は、4日が78%を占め、「休日・祝日の部活動従事」は、82%を占めた。

また、「休日・祝日の大会やコンクール、練習試合及び地域行事等に要する平均時間」においては5時間以上従事が66%を占め、「休日・祝日の部活動における負担感」では、休日に出勤すること自体が61%、引率が10%であった。さらに「兼職兼業を希望する教師等」に関しては、11%の希望にとどまっており、部活動への従事及び休日・祝日の部活動指導への負担感が大きいことがわかった。一方で、市立小・中学校の部活動の指導を担っている教師等の中には、兼職兼業希望の教師等も含め部活動指導を希望する者も一定数いることが想定される。そのような教師等が引き続き指導を担える環境も整備していく必要がある。

このような社会情勢の変化等を踏まえれば、市立小・中学校の部活動の維持が困難となる前に学校と地域及び各種団体等との連携・協働により、持続可能な活動環境を柔軟に整備する必要がある。

第3章 基本理念と基本方針

基本理念「子供たちが継続的に活動できるスポーツ・文化芸術環境を創出します」

部活動は、教育的意義を有し実施されてきた。しかしながら、人口減少に伴う少子化が進展する中、市立小・中学校の部活動を従前の体制で運営することが困難な状況になりつつある状況が増している。さらに、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなる。

国及び県の方針等を踏まえ、令和5年度に児童・生徒、保護者、教職員対象のアンケート実施、各小・中学校への部活動実態調査、校長会やスポーツ協会及び芸術文化協会との情報共有等を基に、学校教育研究会の組織である中学校部活動改革部会で分析や課題等の検討を行った。令和6年度は「小・中学校部活動地域移行推進協議会」を立ち上げて、令和8年度までに天草市としての方向性を見定めるための検討を重ね、円滑な地域移行を目指していくこととした。地域移行を進める視点として、地域社会の活性化も念頭に置き、学校、家庭、地域、行政及び各種団体等との連携上の工夫を図りながら、児童・生徒が継続的に活動できる体制づくりとスポーツ・文化芸術環境を整える。

基本方針1 「中学校における休日の部活動を地域移行する 小学校における部活動を地域移行する」

【 目 標 】

これまで部活動は、学校教育活動ではあるが、教育課程外の活動として地域や各種団体との連携を図りながら学校部活動として実施し、活動の充実を図ってきた。

しかし、少子化に伴う部員数の減少やチーム編成の困難さ及び児童・生徒や保護者のニーズの多様化、また、指導を担う教師等の負担感の課題が指摘されている。このような課題に対応し、将来にわたって児童・生徒がスポーツや文化芸術に継続して親しむ機会を確保するため、中学校部活動はまず休日を、小学校文化部活動は平日も含めて地域移行する。なお、地域移行の推進に当たっては、これまでの部活動の教育的意義や役割を地域クラブ活動においても継承・発展させるとともに、地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値が創出されるよう地域のスポーツ及び文化芸術環境の一体的な整備・充実を図ることを目指す。

地域移行とは、地域のスポーツ・文化芸術環境の一体的な整備・充実を図ることによりこれまでの部活動の教育的意義や役割を継承・発展しつつ、主に地域クラブ活動として活動する中で、地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流等を通じた学びといった新しい価値が創出されるなどの意義を持つものである。

地域移行の受け皿としては、総合型地域スポーツクラブ、各競技団体、地域学校協働本部及び文化芸術団体等がある。学校施設や公共施設を拠点としながら、地域の誰もが参加でき、休日の部活動の地域移行に向け、積極的な活用が期待できる。

また、地域クラブ活動では、学校の枠を超えたチーム編成が可能になり異年齢の子供や多世代の大人とともにスポーツ及び文化芸術に親しむことも期待できる。

さらに、地域の指導者を積極的に発掘し指導力の向上を図ることで、児童・生徒や保護者のニーズに応じた活動や継続した質の高い指導が期待できるとともに、他の世代も含め、地域全体のニーズへの対応と、生涯を通じた運動習慣づくり及び文化芸術に親しむ環境づくりの促進等につないでいくことが重要となる。

基本方針2 「子供の発育発達に応じた活動を行う新たな地域クラブを目指す」

【 目 標 】

地域クラブ活動は、学校と連携し、部活動の教育的意義を継承・発展しつつ、児童・生徒の発育発達に応じた活動を実施することが大切である。活動の実施に当たっては、国のガイドラインや県の指針及び天草市中学校における部活動の方針等に基づき、児童・生徒との十分なコミュニケーションを図りつつ、適切な活動計画を作成の上、合理的かつ効率的・効果的な練習方法を積極的に導入した活動を行う。

地域における新たなスポーツ及び文化芸術環境の整備について、休日と平日で指導者が異なるなど、複数の指導者による活動を実施する場合には、予め指導者間、学校と実施主体等で指導方針や生徒に関する情報等の共有を定期的に行うなど緊密な連携を図るとともに、児童・生徒や保護者等への説明を丁寧に行う。

また、成長期にある児童・生徒のスポーツ障害・事故防止や心身における疲労回復のためにも年間を通して、参加する大会や練習試合及びコンクール等を精選し、合理的かつ効率的・効果的な練習方法等を検討した上で、適切な活動計画を作成し、指導を行う。

基本方針3「指導者の確保と資質向上を図る」

指導者は、児童・生徒の健全育成に責任を負うとともに、児童・生徒に健康やスポーツ・文化芸術の価値及び魅力を伝え、生涯にわたるスポーツ・文化芸術活動の実践へとつなげることが大切である。また、自分自身のこれまでの実践、経験に頼るだけでなく、科学的根拠や指導方法を積極的に習得し、活用することが重要である。運動部活動・文化部活動の地域移行に当たっては、部活動指導員、兼職兼業の許可を得た教師等、企業関係者、スポーツ推進員等の指導者の確保と質の向上を図る。

指導者の確保に関しては、スポーツ関連団体や文化芸術関連団体、地域学校協働活動推進員等と連携を図りながら指導者の発掘に努める。

指導者の資質向上を図るため、指導に必要な知識や技能及び事故防止・安全確保等について、科学的な理論に裏付けられたもの、研究の結果や数値等で科学的根拠が得られたもの、新たに開発されたものなどを活用した研修会及び講習会を実施するなどの取組を進める。

第4章 具体的な取組

第1節 市立小・中学校における部活動を地域移行するための取組

1 新たな地域スポーツ・文化芸術活動推進体制確立のための取組

(1) 天草市教育委員会の取組

ア 本推進計画の周知及び啓発

天草市教育委員会（以下「市教育委員会」という。）は、国のガイドラインを含む本推進計画について、十分な理解を得られるよう本市及び市立小・中学校等の関係機関に周知及び啓発を行う。

イ 天草市立小・中学校部活動地域移行推進協議会の設置

本市の実情に応じた地域移行を進めるため、教育委員会、スポーツ振興課、生涯学習課を中心に、市議会、市スポーツ協会、市芸術文化協会、中学校体育連盟、地域学校協働活動推進員、小・中学校校長会及び保護者等で構成した天草市立小・中学校部活動地域移行推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。協議会では地域移行に向け、国のガイドライン及び本推進計画の内容を踏まえ、新たな地域クラブ活動の在り方とともに、休日の部活動の地域移行に向けた方針、具体的な取組内容、スケジュール等について協議を行う。

また、検討状況等については、随時広報等により公開するように努める。

ウ 部活動地域移行総括コーディネーターの配置と学校部活動改革部会の設置
市教育委員会は、部活動地域移行総括コーディネーターを配置するとともに、学校教育研究委員会に学校部活動改革部会を設置し、地域の実情に応じたスポーツ環境・文化芸術環境整備と充実に向けた段階的な取組を推進する。

エ 運営主体の整備

運営主体は、天草市（教育委員会・スポーツ振興課）、スポーツ協会・文化芸術団体、市小・中学校長会代表及び保護者代表等で組織する。

オ 実施主体等の整備

運営主体は、地域の子供は地域で育てるという考えの基、学校も含めた地域の実情に応じたスポーツ・文化芸術環境を整備・充実させるため、県や地域スポーツ団体・文化芸術団体等と連携を図り、希望する児童・生徒を対象に、ニーズに応じた地域クラブ活動を担う実施主体の整備を行う。

※実施主体＝地域クラブ活動（学校管理下外の活動）を実際に行う団体や個人のこと。

(2) 市立小（吹奏楽部設置校）・中学校の取組

ア 校内部活動検討委員会の設置

市立小（吹奏楽部設置校）・中学校は、校内部活動検討委員会等を設置し、学校規模に応じた部活動の適正化や休日の部活動の地域連携や地域クラブ活動への段階的な移行に向けた取組等を検討し、市教育委員会や部活動地域移行総括コーディネーター等と連携を図りながら推進する。また、検討委員会での協議内容等について学校職員で共有する。

イ 児童・生徒及び保護者等への説明

市立小（吹奏楽部設置校）・中学校は、国のガイドライン及び県の推進計画に基づく本市の地域移行の進め方等の情報について、生徒や保護者及び学校運営協議会に対して丁寧に説明を行い、理解を得る。

2 新たな地域スポーツ・文化芸術活動条件整備のための取組

(1) 運営主体の取組

ア 活動場所の確保

運営主体は、公共のスポーツ施設や社会教育施設をはじめ、市立小・中学校施設の利用について事前の調整打ち合わせ等を実施するなど、地域クラブ活動が利用しやすくなるよう工夫する。地域クラブ活動を行う実施主体が、市が保有するスポーツ施設や社会教育施設、市立小・中学校施設を低廉な利用料で利用できるようにする。

イ 活動計画策定

運営主体は、児童・生徒の心身の成長に配慮し、健康な生活を送れるよう国のガイドライン、県及び本市の方針等に基づき、市立小・中学校と共通理解を図り、適切な活動計画（活動日時・場所、休養日及び大会参加日程等）を実施主体が策定し、それらを遵守するよう指導及び助言を行う。

ウ 会費の設定

実施主体は、運営主体と連携を図り、児童・生徒や保護者の理解を得つつ、活動の維持・運営に必要な範囲で、指導者の報酬も含め持続可能で適切な会費を設定する。

エ スポーツ団体ガバナンスコード等の情報開示

運営主体は、「スポーツ団体ガバナンスコード〈一般スポーツ団体向け〉」に準拠し、公正かつ適切な会計処理や組織運営の透明性を確保するために必要な資料について実施主体に対して情報提供を行う。

オ 適切な保険の加入

運営主体は、実施主体に対して、参加する児童・生徒や指導者等が保険へ加入することを義務付けるとともに、怪我や事故が生じても適切な補償が受けられるよう保険制度の適切な運用に向け助言・指導を行う。

カ 大会・コンクール等の在り方に対する取組

運営主体は、市立小・中学校及び中体連並びに実施主体等と連携を図り、地域クラブ活動に参加する児童・生徒の大会・コンクール等の参加機会の確保とともに参加者の安全確保に向けて取り組む。

(2) 児童・生徒の発育発達に応じた取組

ア 参加大会・コンクールの精査

実施主体は、学校行事等との関連を配慮した年間計画及び月活動計画等を児童・生徒の在籍校と情報を共有しながら作成する。その際、県や本市が定める大会・コンクール参加の目安等を踏まえ、児童・生徒の教育上の意義や、児童・生徒や指導者の負担が過度とならないことを考慮し、参加する大会・コンクール等を精査する。

イ 情報発信

運営主体は、校長及び実施主体等と連携を図り、学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させ、児童・生徒の望ましい成長を保障していく観点から、実施されている地域クラブ活動の内容等を児童・生徒や保護者に周知するとともに、児童・生徒が自主的・自発的に活動を選べるよう支援する。

第2節 指導者の確保と資質向上に向けた取組

(1) 研修会及び講習会

運営主体は、県教育委員会と連携し、指導者及び児童・生徒のニーズに応じ、課題の解決に資する内容の研修会及び講習会を実施し、指導者の資質向上を図る。

(2) 指導者の確保

運営主体は、各スポーツ団体・芸術文化団体等の指導者のほか、部活動指導員や外部指導者等の人材活用、退職教師、教師等の兼職兼業、企業関係者、公認スポーツ指導者、スポーツ推進員、競技・活動経験のある保護者など、様々な関係者から指導者を確保する。

(3) 教師等の兼職兼業について

ア 兼職兼業の規定及び運用

市教育委員会は、令和5年1月に文部科学省等が示した「公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について（手引き）」を参考としつつ、地域クラブ活動での指導を希望する教師等が、円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、規程や運用の改善を行う。

イ 兼職兼業の許可

市教育委員会が兼職兼業の許可をする際には、教師等の本人の意思を尊重し、指導を望んでいないにもかかわらず参加を強いられないことがないよう十分に確認するとともに、勤務校等における業務への影響の有無、教師等の健康への配慮など、学校運営に支障がないことの校長の事前確認等を含め、検討して許可する。

ウ 適切な労務管理

地域クラブ活動において、教師等を指導者として雇用する際には、居住地、異動や退職等があっても当該教師等の意向を踏まえ、継続的・安定的に指導者を確保できるように留意する。その他、兼職兼業に係る労働時間等の確認等を行うに当たっては、厚生労働省の「副業・兼業の促進に関するガイドライン」も参照し、市教育委員会及び地域スポーツ団体・文化芸術団体等の双方が雇用者等の適切な労務管理に努める。

エ 服務上の扱いの明確化

服務を監督する市教育委員会及び校長は、大会等運営に従事する教師等の服務上の扱いの明確化や兼職兼業の許可について適切な勤務管理を行う。

第3節 市立小・中学校における運動部活動及び文化部活動地域移行後の取組

(1) 運営主体・実施主体及び学校との連携

運営主体は、国のガイドラインや県及び本市の方針等に則り、地域クラブ活動の実施主体が、年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会・コンクールの日程等）及び毎月の活動計画（活動日時・場所、休養日及び大会・コンクール参加日程等）を児童・生徒の在籍校と共通理解を図ることを通して策定し、公表できるように支援する。その際、活動中の児童・生徒同士のトラブルや事故等の対応を含む管理責任の主体を明確にし、共通理解を図る。

地域クラブ活動実施主体は、運営主体及び市立小・中学校と連携し、児童・生徒の心身の成長に配慮し、健康に生活を送れるよう、国のガイドラインや県及び本市の方針等に準じ、適切な活動計画を策定し、それらを遵守した活動を行う。

(2) 協議会に代わる組織の設置・運営

市教育委員会は、本章第1節1(1)イの協議会に代わる組織を設置・運営し、地域クラブ活動における様々な課題の解決に向けた取組を進めるとともに、より適切なスポーツ・文化芸術環境を整える。

(3) 研修会及び講習会の継続的な実施

運営主体は、本章第1節1(1)イの協議会で検討された課題の解決に資する内容の研修会及び講習会を実施し、指導者の資質向上を図る。

第5章 今後の進め方

第1節 今後のスケジュール

本推進計画を踏まえ、協議会に代わる組織の設置、ニーズ・課題の把握、スケジュールの構築を行いながら、実施主体の確保や指導者、活動場所等の確保及び生徒・保護者・地域への情報発信を行っていく。

なお、地域の実情によって移行に期間を要する場合は、可能な限り早期の実現を目指すとともに、令和8年度までに実現できない場合においては、今後の方針や進め方、スケジュール等を再検討し作成することとする。

第2節 推進計画の見直しと更新

本推進計画は、国のガイドライン及び県の方針、予算等に鑑み、適宜必要な見直しを行い、次年度以降の取組の改善を図る。

発行者：天草市教育委員会
所 属：学校教育課
発行年度：令和6年度（2024年度）